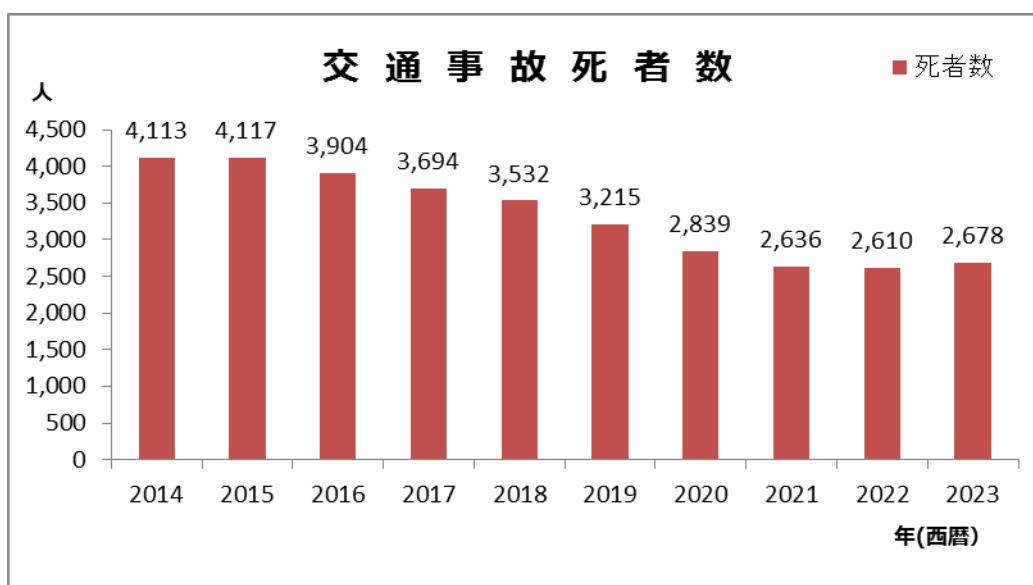


【2023年】交通事故死者数に関するデータについて

2024.2.15

交通事故死者数 2,678 人（2023年）は 8 年ぶりの増加！

2023年の全国交通事故発生状況（2024年1月の警察庁交通局発表）によると、交通事故死者数が8年ぶりに増加したようです。その数は2,678人。対前年比68人増で、+2.6%という増加率となりました。



また死亡者数を都道府県別にみると、大阪府が全国ワースト1位の148人で、対前年比+7人、5.0%の増加となり、全国平均の2倍近くと大きく上回りました。次いで愛知県（145人）、東京都136人。北海道（131人）、千葉（127人）と続きました。

都道府県別死者数ワースト5

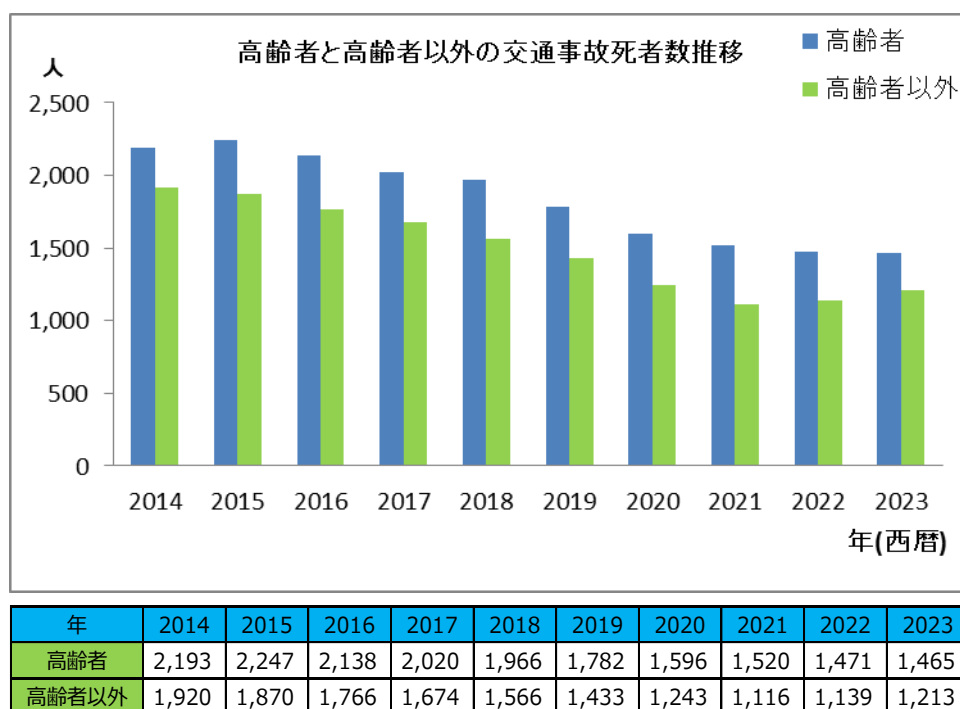
	2021年		2022年		2023年	
	都道府県	死者数(人)	都道府県	死者数(人)	都道府県	死者数(人)
1位	神奈川	142	大阪	141	大阪	148
2位	大阪	140	愛知	137	愛知	145
3位	東京	133	東京	132	東京	136
4位	千葉	121	千葉	124	北海道	131
5位	北海道	120	兵庫	120	千葉	127

当サイトを運営する大阪ガスグループのある近畿地方では、大阪府以外に京都府も死者数59人と対前年比+14人で31%の大幅増加となりました。近畿全体でも交通事故死者数409人で12人増加、対前年比3.0%と全国平均を上回る増加を記録しました。近畿は全国でも交通死亡事故の多い地域ということになり、より一層交通事故に気を付ける必要があります。

交通事故死者数増加の背景

交通事故死者数が増加した背景は、新型コロナウイルスが 5 類に移行したことに伴って社会活動が活発化したからだと考えられています。

それを裏付ける数字として、高齢者（65 歳以上）の交通事故死者数は減少しているにもかかわらず、高齢者以外の数字が増加したことが挙げられます。社会活動が活発化したことこの中心を担う世代ですね。高齢者は対前年比 6 人減少（-0.4%）でしたが、高齢者以外は対前年比 74 人増加（+6.5%）という結果でした。



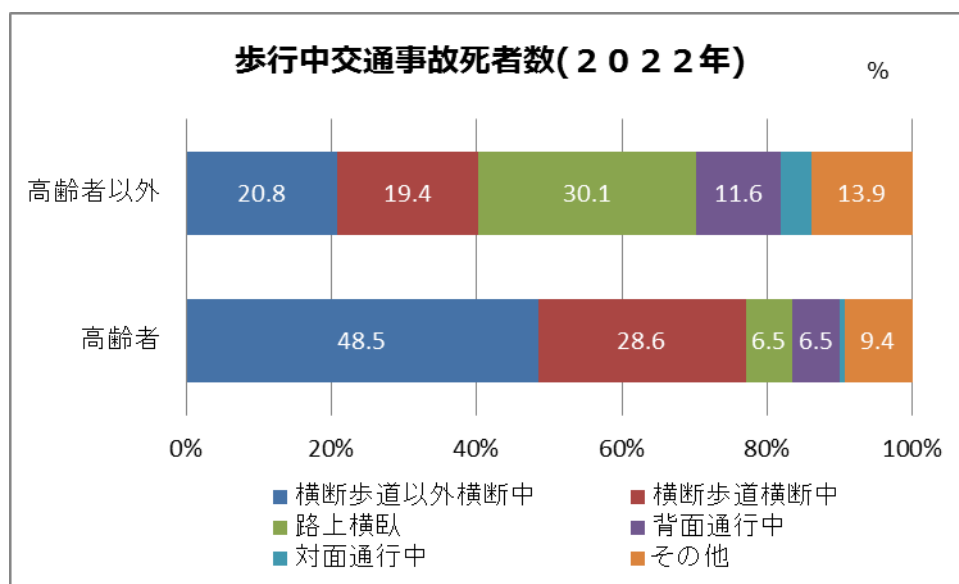
社会活動が活発化に伴って交通事故死者数は増加しています。運転者一人ひとりがより一層安全運転に気を配ることが大切です。

高齢者の交通事故死者数が多い理由

近年は高齢者交通事故死者数は減少していますが、比率でいえば高齢者（65 歳以上）の交通事故死者数は全体の 54.7% を占め、非常に高い水準です。人口 10 万人あたりの交通事故死者数も高齢者は 4.04 人と、高齢者以外の 1.36 人と比べて約 3 倍に達しています。

高齢者の交通死亡事故の多い大きな理由が、横断歩道外横断時の死亡事故が多いということです。2022 年集計では歩行者の死亡事故のうち、約半数の 48.5% を占めました。これは高齢者以外の 20.8% と比べて約 2.5 倍にもなります。また横断歩道横断中の死亡事故に関しても高齢者は歩行者の死亡事故のうち 28.6% を占め、高齢者以外の 19.4% を大きく上回っています。運転者としても高齢者の近くでの運転時には、高齢者が道路を突然横断する

かもしれないと注意を払って安全運転を心掛けることが必要ということです。



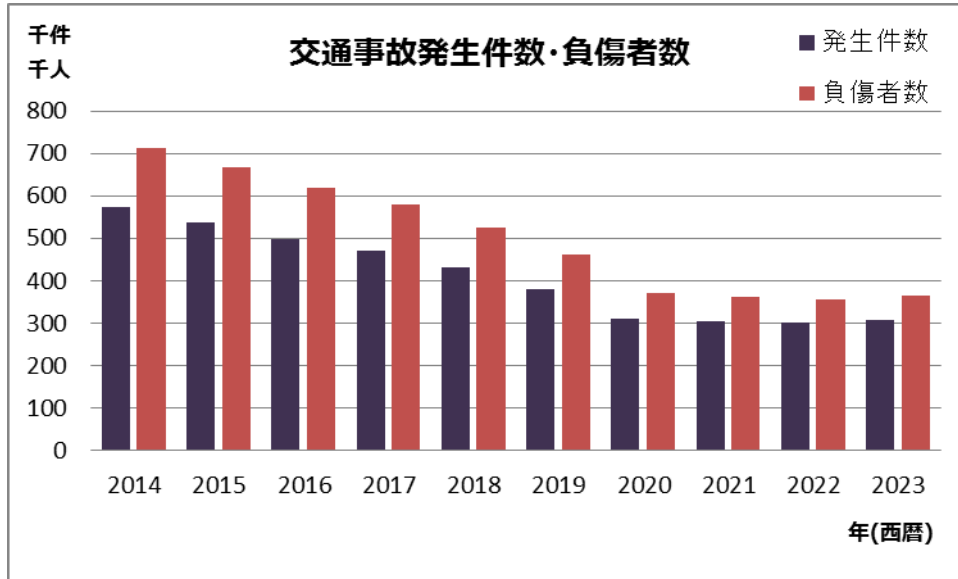
さらに高齢運転者の交通事故死者も高い水準であるということも高齢者の交通死亡事故が多い理由の1つです。高齢者のうち特に75歳以上の高齢運転者の死亡事故に関しては、75歳未満と比べて圧倒的に車両単独事故の比率が多くなっています。2022年統計では、車両単独死亡事故が75歳未満では19.4%の比率であるのに対し、75歳以上高齢者の運転者では43.8%の比率となり、2倍以上となっています。内訳では工作物衝突と路外逸脱が大半を占め、特に路外逸脱は75歳以上高齢者では75歳未満の4倍近い比率となっています。原因も操作不適、すなわちハンドル操作不適とブレーキとアクセルの踏み間違いが大きい理由です。

この高齢運転者の傾向を理解して、高齢運転者の運転する車の近くを走行する場合でも巻き込まれないように気配りして安全運転に心掛けることが大切です。

交通事故発生件数自体が増えている

交通事故死者数が8年ぶりに増加と警察庁の発表にありましたが、交通事故発生件数も同じく増加しているようです。

交通事故発生件数は現時点では速報ベースですが、2023年は前年比7,072件増加(+2.4%)の307,911件でした。交通事故件数が2.4%増加したことに伴って、同じく交通事故死者数が2.6%増加したことになります。同様に速報ベースで交通事故負傷者数は8,426人増(+2.4%)の365,027人でした。交通事故死者数は8年ぶりの増加ですが、交通事故件数と負傷者数は19年ぶりの増加となってしまいました。この3項目共の増加は2000年以来23年ぶりとなります。



年	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
発生件数	573,842	536,899	499,201	472,165	430,601	381,237	309,178	305,196	300,839	307,911
負傷者数	711,374	666,023	618,853	580,850	525,846	461,775	369,476	362,131	356,601	365,027

気配りをして安全運転から安心運転へ

交通事故に合わないためには、運転者自身が気を付けて事故を起こさないだけでなく、事故原因となるさまざまな事象を理解して、他の運転者や歩行者に対しても気を配ることで、事故に合わない、事故に巻き込まれないことが大切です。そのために安全運転をすることに加えて、相手に対して気配りのできる運転が求められています。交通ルールを守ることはもちろん基本ですが、それ以外に譲る心と思いやりをもち、運転者自身だけでなく相手にも安心感を与える「安心運転」が重要になるのです。交通事故の統計の数字からも、運転者がどんなことに気配りをして、どんなことに気を付けて運転しなければならないかがわかります。

今、安全運転を超える「安心運転」を全ての運転者が身に付けることが求められています。